

護ネットと記されていました。確かに登山道の左右の斜面にはほとんど草が生えてなく、食害の凄さを実感しました。多くの人の活動に支えられ、希少植物が守られていることを知り、鳴神山の自然を守る人達のご苦勞に感謝です。

約2時間かけて頂上直下の雷神岳神社に到着。一息いれ主峰の桐生岳(981m)に登る。ここからは360度景色が見渡せ、今日も南に関東平野が広がり、北には日光白根山、男体山、皇海山、赤城山の日本百名山が見え素晴らしい景色でした。

鳴神山は双耳峰で、昼食後もう一つの仁田山岳に寄って下山開始。この時期、登山道は落ち葉で埋もれていて滑りやすく、慎重に下る。予定していた吹上発13:40のバスに乗り、桐生駅に無事戻る。鳴神山の晩秋の自然と眺望を満喫した登山でした。(栗原信治 記)



歩く会 12月例会 東京-国立競技場と 本郷・上野ぶらり

◎12月11日の朝7時に桐生倶楽部を出発。9時50分に国立競技場の東京オリンピックスタジアムに到着。10時の開門を待って東京オリンピック記念博物館を見

学した。古代ギリシアに始まった古代オリンピックの遺跡や当時は戦争を休止して行われた競技の様態や遺跡の写真の展示。クーベルタン男爵の提唱により1896年にギリシアのアテネで創始された近代オリンピックの歴史と発展の様子が2021年の東京大会までさまざまに展示されている。特に興味深かったのは動きを加えた展示であった。例えば、競技のように体を動かすと動きが線で描画され、被検者と選手の動きが同時に表示されて、競技を体感するものがあった。参加国数と規模の増大の反面、最近発覚した汚職事件が大会の理念に甚大な傷をつけたのは残念である。再度バスに乗って、12時に訪ねた東京大学では、正門に安田講堂がそびえ、葉の散りかけた銀杏並木、図書館、赤門、三四郎池などを散歩した。80年前の雰囲気がそっくり残っていた。しかし周辺には高層ビルが立ち並び、様相は一変している。東大から不忍池まで歩き、昼食を摂った。たまたま入った中華料理店は値段も手頃で味も良かった。バスで配られたコロナの割引券を使って買い物を済ませ、旧岩崎邸庭園に入った。明治初期に建てられた洋館建築が広大な芝生に取り囲まれている。最後の訪問地の横山大観記念館を見た後、バスに乗って夕陽を眺めながら帰途につき、6時半に桐生倶楽部に到着した。(山口一郎 記)

